

知事のカザフスタン共和国訪問の結果について

1 要旨・目的

知事が、7月14日から7月20日の日程で、カザフスタン共和国を訪問し、政府要人等との意見交換や国際機関の関係者と面会を行った。また、旧セミパラチンスク核実験場や博物館等を視察するとともに、セメイ医科大学学長や被曝者との意見交換等を通して、同国の被曝の実相への理解を深めるとともに、今後の連携・連帯について確認した。

2 現状・背景

カザフスタン共和国国内の旧セミパラチンスク核実験場では、450回を超える核実験により、100万人以上が被曝したとされる。同国は、中央アジア非核兵器地帯条約締約国の一つであり、NPT運用検討会議第2回準備委員会（2024年）や第3回核兵器禁止条約締約国会議（2025年）で議長国を務めるなど、独立以来、核兵器廃絶の取組を国際的に主導している。

3 日程

（月日は現地時間）

月日	行 事	場 所
7/15 (火)	国際科学技術センター（ISTC）訪問 カザフスタン共和国 アカン・ラフメトゥリン外務第一次官との面談 国連児童基金（UNICEF）カザフスタン事務所との面談	アスタナ
7/16 (水)	カザフスタン共和国 オルジャス・ベクテノフ首相との面談 日本人死亡者慰霊碑参拝	
7/17 (木)	旧セミパラチンスク核実験場、博物館訪問 アバイ州 ウアリ知事との面談	セメイ
7/18 (金)	セメイ医科大学訪問 被曝者との面談	

4 概要

(1) カザフスタン共和国政府関係者への働きかけ【7月15日（火）～16日（水）】

期間中、カザフスタン共和国政府要人と個別に面会し、県／HOPeが進める核兵器廃絶に向けた3つのアプローチについて説明し、今後の連携・連帯のあり方について協議した。

ア アカン・ラフメトゥリン外務第一次官との面会

3つのアプローチについて賛同を得るとともに、今後の連携・連帯の在り方について意見交換を行った。次官からは、今後、県／HOPeに、国際会議の場等で登壇の機会を設けるなど、協力していきたい旨の言及があった。



イ オルジャス・ベクテノフ首相との面会

3つのアプローチについて紹介し、賛同を得た。首相からは、日本とカザフスタンが戦略パートナーシップにより連携を深めてきたことやNPTにおいてもパートナーであることが表明された。また、放射線医学向上への日本政府の貢献や広島とセメイにおける草の根交流の進展について謝辞があり、今後、核兵器不拡散条約（NPT）運用検討会議などで協力する用意がある旨表明された。このほか、広島県とアバイ州との関係の一層の強化について双方で確認した。



(2) 国際機関への働きかけ

ア 国際科学技術センター（ISTC）事務局長との面会

ISTCを訪問し、アンゲリエバ事務局長と面会し、広島取組について紹介した。ISTCからは、県の取組について賛同いただき、会議等での発表機会について、検討する旨の発言があった。



イ 国連児童基金（UNICEF）カザフスタン事務所副所長及び被曝4世との面会

UNICEFカザフスタン事務所のバジ副所長からは、UNICEFの環境、子供の権利に関する1万人規模のボランティアネットワークとの連携について提案があった。また、UNICEFボランティアで被曝4世であるダイアナ・ムルザガリエバさんからは、核兵器禁止条約締約国会議（TPNW）へ参加し発言した活動などの説明を受け、意見交換を行った。

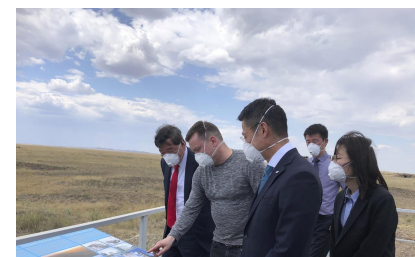


(3) 旧セミパラチンスク核実験場訪問及び関係者との面会【7月17日（木）～18日（金）】

ア 旧セミパラチンスク核実験場への訪問

同実験場は、旧ソビエト連邦のかつての主要な核実験場であり、セメイ市中心部から、西方150キロメートルに位置し、地帯面積は約1万8000平方キロメートルで、現在も立ち入り制限区域になっている。

国立核センター本部を訪問したほか、博物館や旧核実験場において、実際に使用されていた核実験用の観測所や観測機器を見学した。核実験による放射線の影響について住民に知らされないまま、多数の長期的な内部被曝者や環境汚染を生じたことなどの説明を受けた。



イ アバイ州 ウアリ知事訪問

旧セミパラチンスク核実験場のある、アバイ州のウアリ知事を訪問し、意見交換を行った。

ウアリ知事からは、大規模な原子爆弾の被害を受けたアバイ州と広島県は運命を共有する地域であり、悲劇と痛みを分かち合い、両地域の交流と連携関係をさらに強化していく必要があることを双方が確認



した。またGASPPAへの参加について検討したいこと、今後、被爆地広島を訪問したい旨等が表明された。

ウ セメイ医科大学・病院訪問

アルタイ・デュスポフ学長と面談するとともに、核実験による被曝やその後の多世代に及ぼす影響について、調査研究を行っている同大学が運営する病院では、日本政府等の支援を受けて導入された医療機器や小児科病棟等を見学した。また被曝者とも面会し、被曝時の話を聴講した。



(4) 日本人死亡者慰霊碑献花

アスタナ市の日本人死亡者慰霊碑※に献花を行った。

※第二次大戦後、ソ連によって抑留・カザフスタンに強制移送され、同地で亡くなった日本人抑留者を追悼するために日本政府によりアスタナ市中心部に建立された慰霊碑。



5 成果

〔カザフスタン共和国政府との連携強化〕

首相や外務第一次官と面会し、本県／HOPeの3つのアプローチについて説明し、賛同を得た。また、カザフスタン共和国が県／HOPeに対して、国際会議の場で登壇の機会を設けるなど、連携・連帯の強化を図っていくこととした。

〔アバイ州政府との連携強化〕

アバイ州政府に対して、本県／HOPeの3つのアプローチについて説明し、賛同を得ることができた。アバイ州政府のGASPPAへの参加の検討など、アバイ州政府と広島県／HOPeとが、連携・連帯の強化を図っていくこととした。

〔発信力の強化〕

I STCやUNICEFに対して、本県／HOPeの3つのアプローチについて説明し、関係者が、今後の連携・連帯に向けて、具体的に検討していくこととした。